

富谷市の現状及び課題

令和6年12月

富谷市

目 次

第 1 総合計画策定の趣旨と社会全体の環境	
1. 第 2 次富谷市総合計画策定の趣旨	2
2. 時代の潮流	3
第 2 総合計画の構成と期間	5
第 3 総合計画の進行管理	6
第 4 富谷市の現状	
1. 富谷市の特性	8
2. 市民ニーズの把握・整理	17
(1) 市民アンケート調査の概要	17
(2) 施策分野別団体ヒアリング調査の概要	22
(3) 市民ワークショップの概要	24
3. 富谷市総合計画の検証	25
第 5 まちづくりの主要課題	28

第1 総合計画策定の趣旨と社会全体の環境

1. 第2次富谷市総合計画策定の趣旨

本市では、平成28年度を初年度とする「富谷市総合計画」を策定し、令和7年度を目標年次として各種施策を展開し、総合的かつ計画的なまちづくりを進めてきました。この間にも、本市を取り巻く社会経済情勢は、急激に変化しています。

平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」が制定され、本市においても、令和3年3月に「第2次富谷市地方創生総合戦略」を取りまとめ、地方創生の理念と富谷市総合計画において目標とする将来像を重ね合わせ、有機的な連携を図り、積極的な取組を進めています。

また、本市では、令和8年度に市制施行から10年という次のステージに向けて、新たな将来ビジョンを掲げて進めるまちづくりを市民の皆様と共有していくことが必要となっています。

こうした観点から、今後社会情勢等が大きく変化していく中においても、必要な市民サービスを安定的に供給し、持続可能なまちづくりを実現するためには、中長期的な視点と時代の変化に即応する短期的な視点を併せ持った計画の策定が必要となることから、これまでの「富谷市総合計画」「第2次富谷市地方創生総合戦略」に掲げる理念を継承・統合し、新たな将来ビジョンとなる「第2次富谷市総合計画」を策定することとしました。

第1 総合計画策定の趣旨と社会全体の環境

2. 時代の潮流

時代の変化による社会全体の環境と課題は、次のように掲げられます。

① 少子高齢化社会の進行

少子高齢化の波は本市にも押し寄せており、今後一層高齢者の人口比率が増加していくものと予測されています。こうした背景から、高齢者福祉の充実や高齢者の生きがいづくりなど、高齢化社会への早期対応はもとより、将来に渡って安定的に生産年齢人口を維持するため、安心して結婚・出産・子育て・仕事ができる環境の整備や、より多くの若い世代に暮らしの場として選択してもらうための働く場の確保などを早急に進めていくことが求められています。

② 市民生活の安全・安心の確保

未曾有の災害となった東日本大震災や近年の異常気象による水害等を教訓として、国土強靱化地域計画や地域防災計画と連動した、より一層の防災・減災体制の強化が求められているとともに、防犯や交通安全、食の安全等をはじめとする日常生活の安全性や安心感が確保された環境の創出も求められています。

③ 情報化・国際化の進展

情報通信技術の飛躍的な発展とともに、これを背景とした国際化の急速な進展に伴い、経済のグローバル化や人的国際交流の拡大が進んでいます。本市の市政運営においても、インターネットや SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）などの情報通信技術を活用し、便利な地域社会を形成するとともに、これからの国際社会にスムーズに順応できる子どもたちを育てるために、国際理解が深められ、国際感覚が養われる教育環境づくりが求められています。

④ 地球環境問題の深刻化

地球温暖化をはじめとする地球環境問題が深刻化しつつあります。一人ひとりが自らの生活に身近な問題として捉えた取組を進めなければなりません。地球環境問題に対応する脱炭素社会の構築に向けた取組と、身近な生活空間の衛生環境を向上する取組を進め、美しく潤いある環境を創出することが求められています。

⑤ 価値観やライフスタイルの多様化

国際化や情報化の進展、経済情勢の変化等を受けて、近年、価値観やライフスタイルが多様化し、物質的な豊かさだけでなく、心の豊かさが重視されています。それぞれの世代や立場の方々のニーズに応えていくため、文化・芸術・スポーツ等への参加機会の拡充や、多様な市民活動への協力・支援、様々なライフスタイルに対応した住宅・住環境整備等が求められています。

第1 総合計画策定の趣旨と社会全体の環境

⑥まちづくりへの市民参加と協働の進展

効率的で効果的な行政サービスが求められている一方で、行政との共通理解と信頼関係を築きながら、市民の主体的な参加と多様な主体による連携・協力によって実現される協働のまちづくりが重要視されています。

⑦DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進

政府は、令和4年に「デジタル田園都市国家構想」を掲げ、デジタルの技術の活用により、地域の構成を活かしながら地域の社会課題の解決を目指しています。本市のまちづくりにおいてもビッグデータの活用、スマートモビリティや MaaS の導入等デジタル技術を活用した取組が求められています。

■ デジタル田園都市国家構想の取組イメージ全体像



出典：デジタル庁

第2 総合計画の構成と期間

「総合計画」は、基本構想、基本計画及び実施計画から構成されており、福祉、教育、産業、環境、建設など地方自治体が行うすべての分野にわたる計画の指針となるもので、今後本市として目指すまちづくりの方向性や、それを実現するための施策などを定める重要な計画です。「富谷市をこんなまちにしたい」という思いを「目指す将来像」として描き、そのために何をすればいいのかを定めている計画が総合計画です。

◇基本構想

期間：令和8（2026）年度～令和17（2035）年度（10年間）

市のまちづくりの将来像を示し、その実現に向けた基本方針などを定めたもので、実現に向けた取組の方向性を示す基本計画の指針となるものです。

長期的な視点に立ったまちづくりを進めていく必要性から、計画期間は10年間としています。

◇基本計画

期間：【前期】令和8（2026）年度～令和12（2030）年度（5年間）

期間：【後期】令和13（2031）年度～令和17（2035）年度（5年間）

基本構想に掲げる「市の将来像」を実現するための施策体系や施策の展開方針、施策達成目標などを定めたもので、個別具体の事業を示す実施計画の指針となるものです。

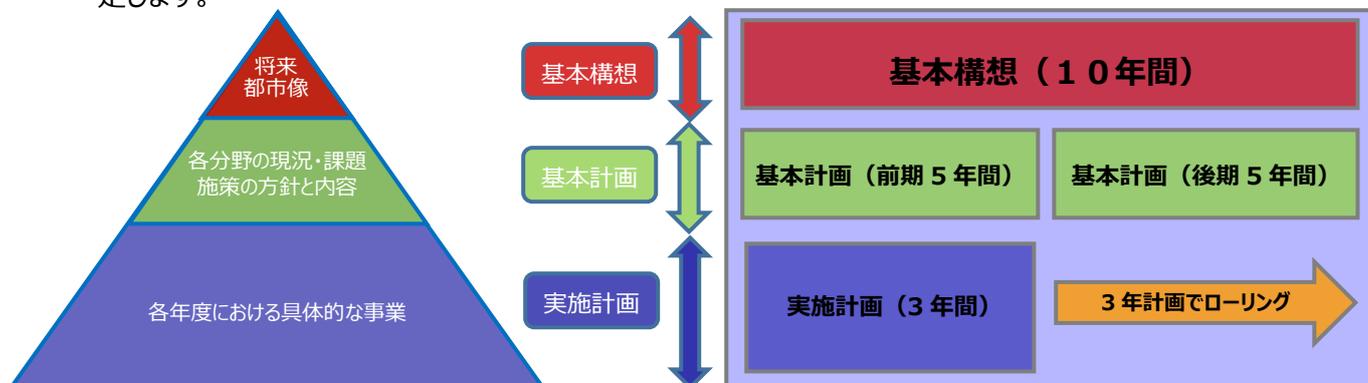
計画期間は、中期的な観点から達成度を検証し、計画の見直しを含めて基本構想の実現を目指していくものとして、前期計画5年間、後期計画5年間としています。

◇実施計画

期間：毎年度策定

実施計画は、財政計画との整合性を図りながら、基本計画で示した施策の目的を達成するために必要な事業を具体的に示すものです。

計画の期間は3年とし、毎年、社会経済情勢の変化及び財政状況を勘案しながらローリング方式※により策定します。



※ローリング方式

計画の練り直しや見直しのことで、計画の実施過程において、計画と実績との間に食い違いが生じていないかどうかを毎年チェックし、違いがある場合は実績に合わせて計画の再編を行い、目標の達成を図る方式のことです。

第3 総合計画の進行管理

10年にわたる計画期間において、年次や時期における経済・財政事情に対応しつつ、施策や事業を効率的かつ効果的に実施し、その実施状況を把握して市民に情報公開していくための適切な進行管理を図り、施策や事業の目標達成度と効果について定期的に検証するとともに、適切に計画に反映していくこととします。

今後、社会経済情勢の変化等により、総合計画の改定が必要な場合には、弾力的に見直していくこととします。

◇富谷市地方創生総合戦略との関係

富谷市総合計画の中に、重点施策として「富谷市地方創生総合戦略」を位置づけ、人口増加に向けた着実な発展を目指します。

■第2次富谷市総合計画

基本構想

人口増加の将来目標の達成を視野に入れた、10年後の本市が目指す将来像を描き、将来像実現に向けたまちづくりの目標とまちづくりの方針を明確にし、市民と理念を共有しながら、まちづくりを実施していきます。

前期基本計画

(計画期間：令和8年度～令和12年度)

基本構想が目指すまちづくりの方針の具現化に向け、重点プロジェクトの設定など、当初の5年間で実施すべき具体的な施策を定め、計画に沿って着実に実施していきます。

第3次富谷市地方創生総合戦略

(計画期間：令和8年度～令和12年度)

「まち・ひと・しごと創生法」の趣旨に即し、前期基本計画の中でも特に人口増加に向けて即効性のある効果的な事業を抽出したものです。明確な達成目標を定めながら、計画に沿って重点的・戦略的に実施していきます。

第3 総合計画の進行管理

◇持続可能な開発目標（SDGs）との関係

SDGsとは、「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略であり、2015年に国際連合で採択された世界共通の目標です。「誰一人取り残さない」持続可能な社会の実現に向けて、2030年を年限とする17のゴールと169のターゲット（ゴールごとの詳細な方向性）から構成されます。

SDGsの特徴として、先進国、途上国を問わず世界の各国が目指すものであり、市民や事業者など、多様な主体の参画が求められています。自治体や企業、そして市民一人ひとりがSDGsの達成に向けて取り組むことが、「誰一人取り残さない」持続可能な地域を創り出すことにつながっていきます。

本市が基本構想に掲げる将来像「住みたくなるまち日本一」や基本目標は、市民や事業者、行政などの関係者が共にまちづくりに取り組むことによって実現される目標であり、これらの取組こそがSDGs達成に向けた取組に貢献するものと考えています。

なお、前期基本計画では、施策分野ごとに関連するSDGsゴールを記載しています。

■SDGs17の国際目標



資料：外務省国際協力局地球規模課題総括課（令和2年6月）

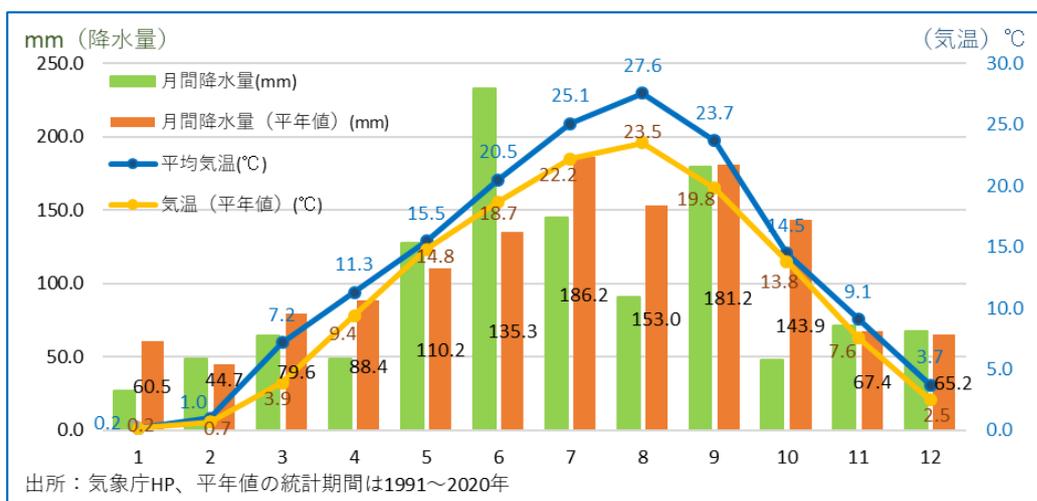
第4 富谷市の現状

1. 富谷市の特性

1. 自然的特性

本市の 2023 年の月別平均気温は、0.2～27.6℃であり、かつ 1～2 月の寒冷時にも 0℃を上回り、年間の平均気温は概ね 12℃前後で推移しています。雪も少なく東北地方の中でも温暖な気候は、本市の強みとなっています。

■ 2023 年の気象状況（アメダス大衡）



2. 歴史

現在の本市の区域には、寺前下遺跡等、縄文時代から継続的に定住したとみられる遺跡が数多くあり、古代から住みやすい土地であったことが窺われます。

戦国時代は、伊達氏勢力下にある黒川氏が支配していましたが、天正 19（1591）年に伊達政宗が豊臣秀吉から「富谷」を含む黒川郡、宮城郡、名取郡等を拝領以降、「富谷」の発展の基礎整備が始められました。江戸時代となり、元和 4（1618）年、吉岡黒川氏の家老を退いていた内ヶ崎筑後が、伊達政宗に宿場の開設を命ぜられ、元和 6（1620）年に富谷宿が誕生しました。

明治時代に入り、明治 6（1873）年には、宮城県内の他の自治体と同様に小学校（旧富谷小学校、旧西成田小学校）が開校するなど近代化が進められました。明治 22（1889）年の町村制の施行により、黒川郡富谷村、一関村、二関村、三関村、明石村、石積村、今泉村、大亀村、大童村、穀田村、志戸田村、西成田村の区域をもって、黒川郡富谷村が発足しました。

その後、昭和 38（1963）年 4 月 1 日の町制施行により黒川郡富谷町となりました。昭和 45（1970）年 6 月、町内初の大規模新興住宅地である向陽台団地（東向陽台）の開発が開始され、その後も町内に続々と住宅団地の開発が進みました。

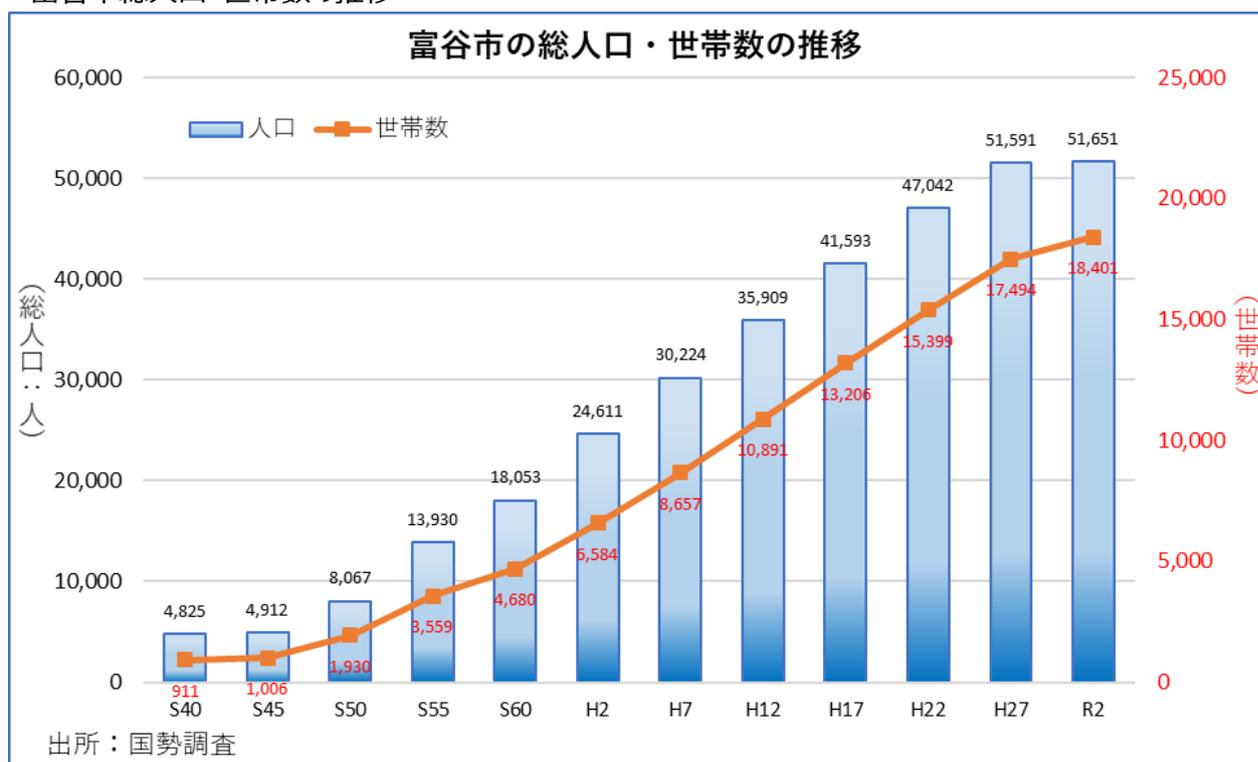
平成 27 年国勢調査で人口が 5 万人となり、市制の要件が整ったことから、平成 28（2016）年 10 月 10 日に単独での市制施行により富谷市が誕生しています。

第4 富谷市の現状

3. 人口の推移

本市の総人口は令和2年で51,651人となっています。これまで本市の人口は増加傾向にありましたが、最近は微増となっています。また、本市の世帯数は一貫して増加しており、令和2年で18,401世帯となっています。

■富谷市総人口・世帯数の推移



■年齢3区分別人口の推移

	人口 (人)				年齢別人口比率 (%)			
	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年	平成17年	平成22年	平成27年	令和2年
年少人口	7,879	9,249	9,625	8,491	19.0	19.7	18.7	16.5
生産年齢人口	28,940	31,295	32,749	31,812	69.7	66.6	63.6	61.8
老年人口	4,725	6,412	9,088	11,144	11.4	13.7	17.7	21.7
計	41,593	47,042	51,591	51,651	100.0	100.0	100.0	100.0

資料：国勢調査 注) 計には年齢不詳を含む、構成比には年齢不詳を含まない人数で計算

第4 富谷市の現状

4. 居住者特性

国勢調査によって平成17年から令和2年までの15年間の人口・世帯数の動向をみると、本市の人口は増加傾向にあります。仙台都市圏の14市町村（本市、仙台市、塩竈市、名取市、多賀城市、岩沼市、亘理町、山元町、松島町、七ヶ浜町、利府町、大和町、大郷町、大衡村）で比較すると人口増減率は最も高くなっています。

富谷市の年少人口の割合は、平成17年から令和2年まで宮城県平均や仙台都市圏平均を上回っているものの徐々に割合が少なくなっています。老年人口の割合は、宮城県平均や仙台都市圏平均を下回っているものの、割合が高くなってきています。

■人口増減・世帯数増減の状況（平成17年～令和2年）

地域名	人口増減 (人)	人口増減率 (%)	世帯数増減 (世帯)	世帯数 増減率 (%)	世帯あたり 人員増減 (人/世帯)	世帯あたり 人員増減率 (%)
富谷市	10,058	24.2	5,253	40.0	▲0.36	▲11.3
仙台都市圏	77,110	5.3	118,385	20.5	▲0.32	▲12.7
宮城県	▲58,222	▲2.5	123,895	14.4	▲0.41	▲14.8

資料：国勢調査

■年齢別人口構成比の推移

地域名	平成17年			平成22年			平成27年			令和2年		
	年少 人口	生産 年齢 人口	老年 人口									
富谷市	19.0	69.7	11.4	19.7	66.6	13.7	18.7	63.6	17.7	16.5	61.8	21.7
仙台 都市圏	14.2	69.2	16.7	13.7	67.0	19.3	13.0	64.0	23.0	12.5	62.3	25.2
宮城県	13.8	66.2	20.0	13.2	64.4	22.3	12.5	61.7	25.7	11.9	59.7	28.3

資料：国勢調査

第4 富谷市の現状

5. 通勤・通学の状況

(1) 通勤

令和2年度の本市の通勤の状況をみると、流出率は69.3%に対し、流入率は52.8%であり流出超過となっています。富谷市内から通勤する就業者のうち、他市町村への通勤先で最も多いのは仙台市で全体の46.1%を占め、特に隣接する仙台市泉区、仙台市青葉区が多くなっており、次いで大和町、仙台市宮城野区となっています。

富谷市内で従業する就業者のうち、他市町村からの通勤者で最も多いのは仙台市で全体の32.7%を占め、特に仙台市泉区が多くなっており、次いで大和町、仙台市青葉区となっています。

■通勤（令和2年）

資料：国勢調査

地域名	常住地による就業者数 (人)	流出		従業地による就業者数 (人)	流入		昼夜間比 (%)
		就業者数 (人)	流出率 (%)		就業者数 (人)	流入率 (%)	
富谷市	25,280	17,515	69.3	16,450	8,685	52.8	65.1
【流出の内訳】				【流入の内訳】			
	仙台市	11,655	46.1	仙台市	5,374	32.7	
	(泉区)	(4,799)	(19.0)	(泉区)	(3,277)	(19.9)	
	(青葉区)	(3,833)	(15.2)	大和町	1,169	7.1	
	大和町	2,384	9.4	(青葉区)	(946)	(5.8)	
	(宮城野区)	(1,829)	(7.2)	(宮城野区)	(623)	(3.8)	
	その他	3,476	13.8	その他	2,142	13.0	

(2) 通学

令和2年度の本市の通学の状況をみると、流出率は72.4%に対し、流入率は33.3%であり流出超過となっています。富谷市内から通学する通学者のうち、他市町村への通学先で最も多いのは仙台市で全体の58.8%を占め、特に隣接する仙台市泉区、仙台市青葉区が多くなっており、次いで、仙台市宮城野区、大和町となっています。

富谷市内に通学する通学者のうち、他市町村からの通学者で最も多いのは仙台市で全体の24.8%を占め、特に仙台市泉区が多くなっており、次いで大和町、仙台市青葉区となっています。

■通学（令和2年）

資料：国勢調査

地域名	常住地による通学者数 (人)	流出		従業地による通学者数 (人)	流入		昼夜間比 (%)
		通学者数 (人)	流出率 (%)		通学者数 (人)	流入率 (%)	
富谷市	3,199	2,317	72.4	1,323	441	33.3	41.4
【流出の内訳】				【流入の内訳】			
	仙台市	1,880	58.8	仙台市	328	24.8	
	(泉区)	(805)	(25.2)	(泉区)	(302)	(22.8)	
	(青葉区)	(712)	(22.3)	大和町	87	6.6	
	(宮城野区)	(205)	(6.4)	(青葉区)	(18)	(1.4)	
	大和町	190	5.9	大衡村	7	0.5	
	その他	247	7.7	その他	19	1.4	

第4 富谷市の現状

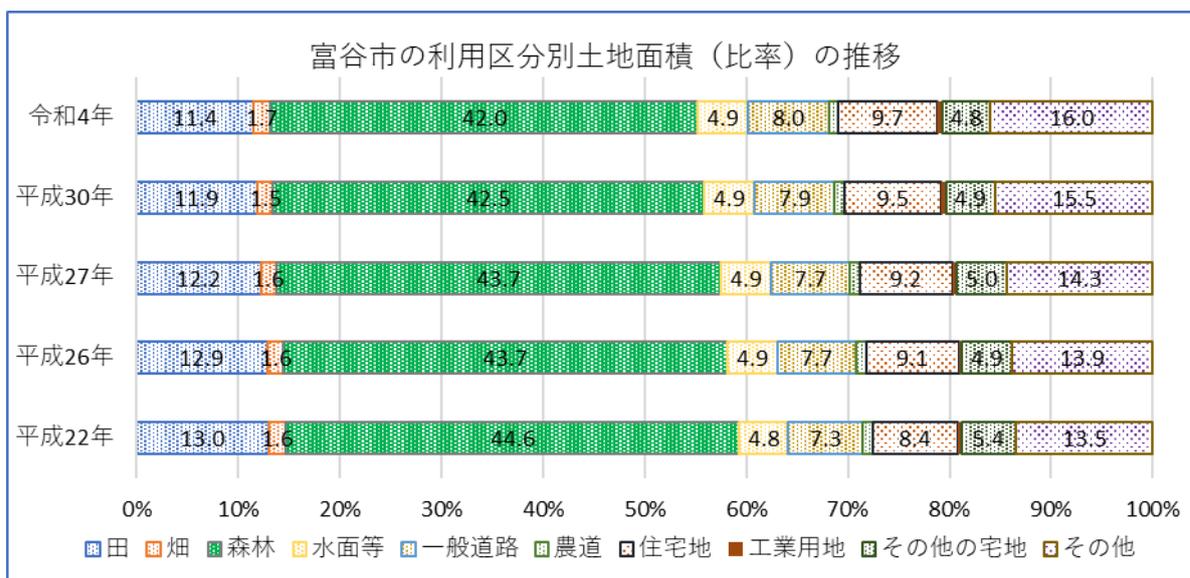
6. 土地利用の特性

本市は、良好な自然環境を保全しながら都市形成を図った都市であり、国道4号に沿って南北方向に市街地が形成され、北部にはまとまった農地、東部には森林が広がっています。

令和4年の土地利用区別土地面積としては、森林が全体の42.0%、農地13.2%（田11.44%、畑1.74%）となっており、森林と農地で全体5割以上を占めています。市全域が都市計画区域であり、市街化区域および用途地域は25.2%を占めており、用途地域のうち住居系の指定割合が77.1%、工業系の指定割合が19.5%と、宮城県平均と比較して高くなっています。

構成比の増減傾向を見ると、大きな変化は見られないものの、田、森林、その他の宅地（事務所用地等）が減少傾向にあり、工業用地、その他（公共・公益施設、レクリエーション用地等）、住宅地、一般道路が増加傾向にあります。

■土地利用区分の推移



第4 富谷市の現状

7. 経済・産業特性

(1) 市内総生産

宮城県の令和3年度市町村民経済計算によれば、本市の市内総生産額は平成23年に比べて23.8%増加し、1,199.8億円となっています。

■ 市内総生産額の推移（実数）



(2) 一人当たり市民所得

宮城県の市町村民経済計算によれば、本市の市民所得は、平成23年度から令和3年度まで増減はあるものの17.5%増加しています。一人当たり市民所得は、宮城県の一人当たり県民所得を上回っています。

■ 一人当たり市民（県民）所得の推移

（単位：千円）

	平成23年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
富谷市	2,757	3,052	3,100	3,075	2,978	3,031
宮城県	2,506	3,041	3,043	2,972	2,795	2,862
対県比	110.0	100.4	101.9	103.5	106.5	105.9

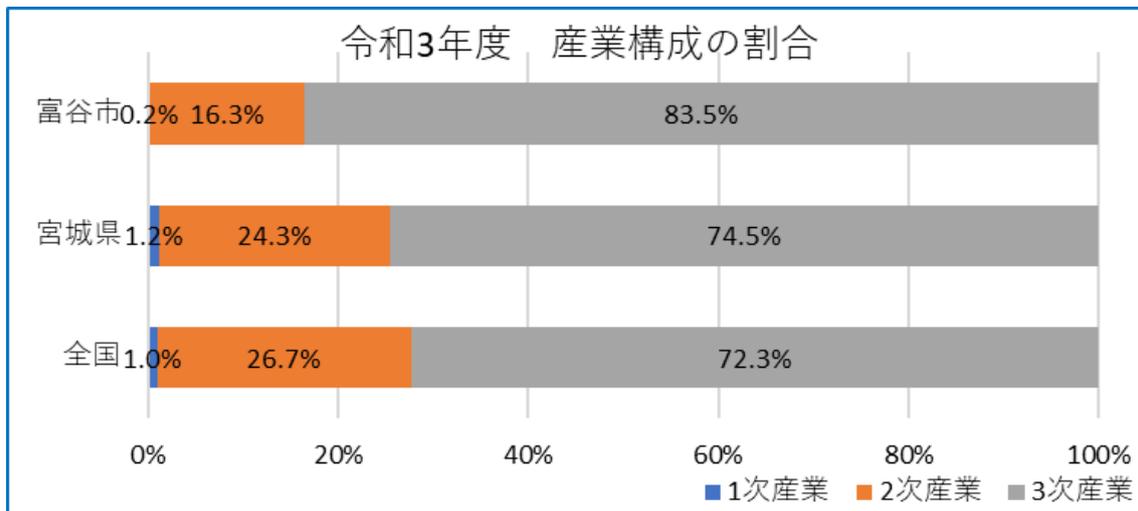
*宮城県の一人当たり県民所得及び一人当たり市町村民所得は各年度の所得額を10月1日現在の推計人口で除して計算

第4 富谷市の現状

(3) 産業の構成

本市の産業構成割合は、全国及び県の平均と比べ、3次産業の割合が高く、1次産業および2次産業の割合が低くなっています。

■令和3年 産業構成の割合（生産額（名目））



【出所】市町村民経済計算（宮城県）、宮城県民経済計算、経済活動別国内総生産（内閣府）

第4 富谷市の現状

(4) 事業所数及び従業者数

事業所数は、平成8年から令和3年にかけて、概ね増加基調で推移しています。また、従業者数も同様に増加基調で推移しており、平成8年6,844人に対し、令和3年は15,095人となっています。

令和3年の産業分類別（大分類）構成比をみると、事業所数では卸売業・小売業 23.5%、建設業 13.9%、生活関連サービス業・娯楽業 11.7%、医療・福祉 11.6%の順。従業者数では卸売業・小売業が 23.5%、医療・福祉 15.3%、製造業 9.2%、運輸業・郵便業及び宿泊業・飲食サービス業 8.9%の順となっています。

■ 事業所数及び従業者数の推移



出所：総務省統計局「事業所・企業統計調査報告」、「経済センサス」（富谷市統計書）

（注）令和元年は「令和元年経済センサス-基礎調査」の民営+国・地公体の事業所数合計、従業者数のデータ無し

第4 富谷市の現状

■ 事業所数・従業者数構成比

産業小分類	事業所数	比率	従業者数	比率
農業・林業	3	0.2	11	0.1
漁業	0	0.0	0	0.0
鉱業・採石業・砂利採取業	1	0.1	1	0.0
建設業	181	13.9	1,260	8.3
製造業	50	3.8	1,384	9.2
電気・ガス・熱供給・水道業	2	0.2	16	0.1
情報通信業	6	0.5	15	0.1
運輸業・郵便業	38	2.9	1,338	8.9
卸売業・小売業	306	23.5	3,553	23.5
金融業・保険業	17	1.3	153	1.0
不動産業・物品賃貸業	38	2.9	215	1.4
学術研究・専門・技術サービス業	40	3.1	202	1.3
宿泊業・飲食サービス業	128	9.8	1,348	8.9
生活関連サービス業・娯楽業	152	11.7	805	5.3
教育・学習支援業	98	7.5	1,006	6.7
医療・福祉	151	11.6	2,313	15.3
複合サービス事業	8	0.6	65	0.4
サービス業（他に分類されないもの）	66	5.1	1,027	6.8
公務（他に分類されるものを除く）	15	1.2	383	2.5
（合計）	1,300	100.0	15,095	100.0

資料：令和3年経済センサス

第4 富谷市の現状

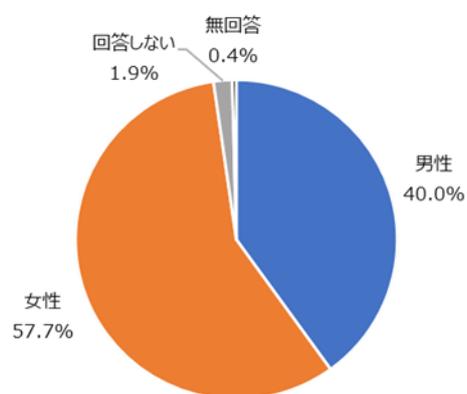
2. 市民ニーズの把握・整理

(1) 市民アンケート調査の概要

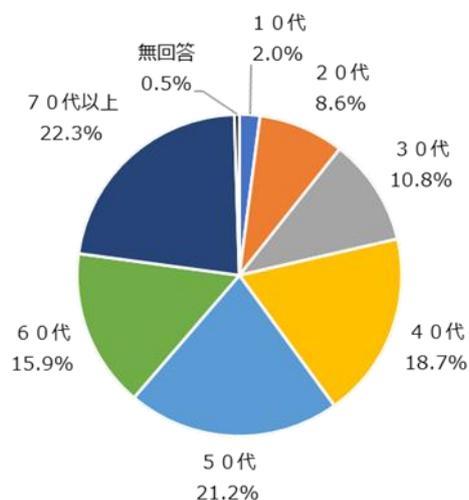
市民のまちづくりに関する意識・ニーズ等を広く把握し、第2次富谷市総合計画策定に向けた基礎資料とすることを目的として、令和6年10月にアンケート調査を実施しました。市内にお住まいの18歳以上の市民2,000人（無作為抽出）に対して調査を依頼し、1,226票（回答率61.3% ※内訳は郵送767票（62.6%）Web459票（37.4%））の回答が得られました。

■回答者の属性

No.	選択肢	件数	比率
1	男性	491	40.0
2	女性	707	57.7
3	回答しない	23	1.9
	無回答	5	0.4
	回答者数 (N)	1,226	100.0



No.	選択肢	件数	比率
1	10代	25	2.0
2	20代	105	8.6
3	30代	132	10.8
4	40代	229	18.7
5	50代	260	21.2
6	60代	195	15.9
7	70代以上	274	22.3
	無回答	6	0.5
	回答者数 (N)	1,226	100.0



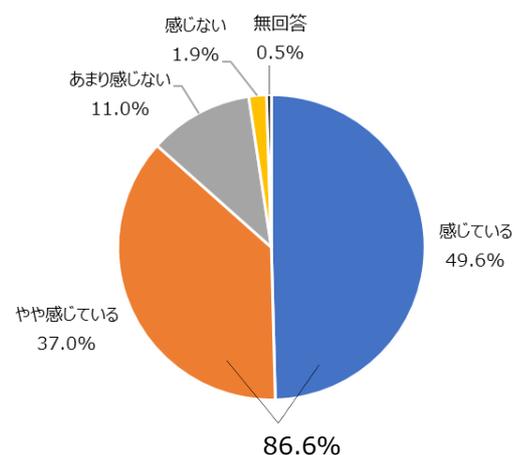
第4 富谷市の現状

①富谷市への愛着、暮らしやすさ（将来居留意向）に関する調査

富谷市への愛着については、「愛着を感じている」、「やや感じている」が 86.6%と大半を占めました。富谷市のどのようなところに愛着を感じるのかでは、「便利さ（買い物、病院等）」が 58.9%と最も多く、次に「安全・安心な暮らし」(44.0%)、「自然環境」(35.9%)が続いています。

【富谷市への愛着】

No.	選択肢	件数	比率
1	感じている	608	49.6
2	やや感じている	454	37.0
3	あまり感じない	135	11.0
4	感じない	23	1.9
	無回答	6	0.5
	回答者数 (N)	1,226	100.0



【富谷市のどのようなところに愛着を感じるのか】

No.	選択肢	件数	比率
1	便利さ（買い物、病院等）	626	58.9%
2	安全・安心な暮らし	467	44.0%
3	自然環境	383	35.9%
4	町並み・景観	283	26.4%
5	子育て環境	248	23.3%
6	地域性・地域住民（人柄）	205	19.3%
7	歴史・文化	48	4.5%
8	教育環境	41	3.9%
9	その他	65	6.0%
	無回答	202	4.1%
	累計	2,402	226.2%
	回答者数 (N)	1,062	100.0%

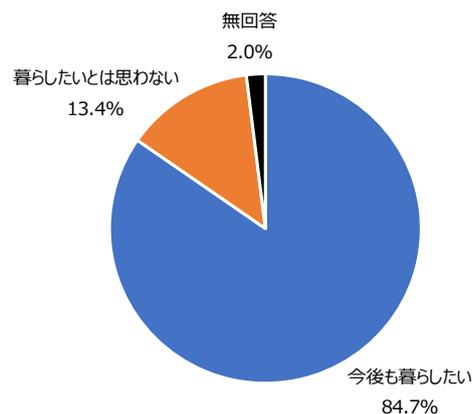
第4 富谷市の現状

富谷市の暮らしやすさ（定住意向）については、「今後も暮らしたい」が84.7%と大半を占めました。

富谷市で暮らしたいと思う理由では、「住環境が良い」が53.3%と最も多く、次に「買い物や外食、娯楽に便利」（48.6%）、「自然環境が良い」(31.4%)が続いています。また、暮らしたいと思わない理由では、「交通の便が悪い」が71.3%と最も多く、次に「買い物や外食、娯楽に不便」（27.4%）、「公共施設が充実していない」(21.3%)が続いています。

【富谷市の暮らしやすさ】

No.	選択肢	件数	比率
1	今後も暮らしたい	1,038	84.7
2	暮らしたいとは思わない	164	13.4
	無回答	24	2.0
	回答者数 (N)	1,226	100.0



【富谷市で暮らしたいと思う理由】

No.	選択肢	件数	比率
1	住環境が良い	553	53.3%
2	買い物や外食、娯楽に便利	504	48.6%
3	自然環境が良い	326	31.4%
4	子育てがしやすい	166	16.0%
5	医療・福祉サービスが充実している	163	15.7%
6	地域での人間関係が良い	160	15.4%
7	学校や仕事、家族の都合	147	14.2%
8	交通の便が良い	115	11.1%
9	都市基盤が整っている	49	4.7%
10	子どもの教育環境が良い	49	4.7%
11	公共施設が充実している	41	3.9%
12	消防・防災・防犯体制が整っている	37	3.6%
13	その他	61	5.9%
	無回答	32	3.1%
	累計	2,403	231.5%
	回答者数 (N)	1,038	100.0%

第4 富谷市の現状

②富谷市が目指すまちづくりの方向性に関する調査

目指すべきまちづくりの方向性については、「道路や公共交通機関などの生活基盤が整った利便性の高いまち」が61.5%と最も多く、次に「誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の充実したまち」が45.8%と続いています。

【富谷市が目指すべきまちづくりの方向性】

No.	選択肢	件数	比率
1	道路や公共交通機関などの生活基盤が整った利便性の高いまち	754	61.5%
2	誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせる福祉の充実したまち	562	45.8%
3	子育て環境や子どもたちを育む教育の充実したまち	489	39.9%
4	自然が豊かで潤いある環境にやさしいまち	295	24.1%
5	防災・防犯に優れたまち	289	23.6%
6	高齢者が生きがいや役割を持ち、いきいきと暮らせるまち	253	20.6%
7	農業や商業、工業など産業が充実した活気のあるまち	222	18.1%
8	人と人とのつながりを持ち、地域みんなで支え合うまち	133	10.8%
9	芸術・文化活動・スポーツ活動などが盛んなまち	117	9.5%
10	子どもの権利条約に基づいた子どもにやさしいまちづくりを推進するまち	107	8.7%
11	宿場町の歴史と文化を誇れるまち	49	4.0%
12	市民が主体となってまちづくりに参画できる市民協働のまち	38	3.1%
13	その他	40	3.3%
	無回答	57	4.6%
	累計	3,405	277.7%
	回答者数 (N)	1,226	100.0%

第4 富谷市の現状

これから必要な事業については、「仙台市泉中央までの交通利便性の確保」が73.3%と最も多く、次に「安全・安心な暮らしの確保」が42.0%と続いています。

【今後必要な事業】

No.	選択肢	件数	比率
1	仙台市泉中央までの交通利便性の確保	899	73.3%
2	安全・安心な暮らしの確保	515	42.0%
3	総合病院などの医療施設の誘致	474	38.7%
4	スーパーなど商業施設の充実	365	29.8%
5	子育て支援策の充実	293	23.9%
6	幼児教育や小中学校の教育等の充実	291	23.7%
7	企業誘致の推進	289	23.6%
8	市民バス・デマンド型交通の充実	275	22.4%
9	幹線道路の整備	260	21.2%
10	介護予防の推進	208	17.0%
11	健康維持・増進への取組の推進	197	16.1%
12	公園など憩いの場の整備	178	14.5%
13	共に支え合う地域づくりの推進	109	8.9%
14	文化会館の整備	107	8.7%
15	障がいのある方が働くことのできる通所施設等の整備	99	8.1%
16	地球温暖化対策の推進	88	7.2%
17	デジタルを活用した行政サービスの提供	83	6.8%
18	子どもの権利条約に基づいた子どもにやさしいまちの推進	74	6.0%
19	自然や人とふれあえる市民農園の整備	69	5.6%
20	国際姉妹都市・友好都市実現による国際交流、多文化共生の推進	44	3.6%
21	大亀山森林公園の利活用の推進	39	3.2%
22	市民協働の推進	22	1.8%
23	その他	49	4.0%
	無回答	58	4.7%
	累計	5,085	414.8%
	回答者数 (N)	1,226	100.0%

第4 富谷市の現状

(2)施策分野別団体ヒアリング調査の概要

総合計画に関連する商工業・教育・福祉・地域コミュニティ・市民協働などの各分野における本市の課題や、市内で事業活動を行う事業者・団体等のニーズを把握し、総合計画の策定に向けた基礎資料とするため、9事業者・団体等を対象にヒアリング調査を実施しました。

①事業活動における課題と行政に望む支援策について

事業所（団体）が抱えている課題としては、原材料高騰等による収益性低下への対策や少子高齢化を見据えた担い手づくりを課題として挙げる事業所（団体）が多く、行政に対しては、新規就農者への支援の拡充、地域事業者（団体）等が連携しやすい環境づくり、事業活動の広報・宣伝・PR支援を求める声が多く挙げられました。

②事業活動の拠点としての富谷市の「強み」と「弱み」について

「強み」としては、東北一の経済圏である仙台市と隣接していること、起業・創業支援にかかる施設が充実していること、地域住民の市民力が高いこと、などが挙げられました。これらの強みを活かすための取組として、道の駅など高い集客力が見込める施設の整備や起業・創業時の活動拠点として活用できるレンタルオフィスの確保などが挙げられました。

一方、「弱み」としては、公共交通の利便性が悪いという声が多く、創業支援にかかる補助金制度が少ないという意見もありました。これらの弱みを克服する取組として、デマンド交通の拡大や、車での移動のしやすさの追求などの意見が挙げられました。

③富谷市の将来の都市像について

人口減少や少子高齢化がさらに進むことで、今後、本市が直面する地域全体における課題としては、介護予防事業や健康寿命を延ばす施策の充実、新興住宅地と過疎化地域との間の格差是正などが挙げられました。

また、本市が目指すべき将来像または将来性（可能性）としては、若い世代だけではなく高齢者も含めすべての世代が安全・安心に楽しく元気に暮らし続けられるまちづくりに関する意見が多く寄せられました。その他、IT技術を駆使した先進的な取組の実現、起業家が育つまちを目指す、などの意見も挙げられました。

これらを踏まえたうえで行政に必要とされる取組として、高齢者の居場所づくり、医療施設の充実、若い人が働きたくなる企業の誘致、子ども向け起業イベントの開催、公共交通における自動運転の導入など、多岐にわたる意見が挙げられました。

第4 富谷市の現状

④富谷市のこれまでの取組や今後のまちづくりについて

産業振興に関する取組については、積極的な企業誘致が必要との意見が多く見られました。

地域のイメージ戦略については、ブルーベリーやハチミツなどの特産品のイメージが定着しているとの意見があった一方で、それらの特産品の供給体制が確立していないことや誰もがわかる富谷名物が必要との意見も寄せられました。

賑わいづくりに関する取組については、宿泊施設や物販店が少ないとの意見のほか、近隣自治体との連携を図るべきとの意見も挙げられました。

子どもを産み、育てやすい環境づくりに向けた取組については、子育て支援、教育環境が充実しているとの意見が数多く挙げられました。

福祉社会の形成に向けた取組については、介護予防、健康づくりに関する取組が充実しているとの意見がある一方で、高齢者支援の取組が不足しているとの意見が見られました。

安全・安心なまちづくりに向けた取組については、災害に強いまちづくりが進められているとの意見がある一方で、農業分野からは鳥獣被害への対策を充実させてほしいとの意見が寄せられました。

第4 富谷市の現状

(2) 市民ワークショップの概要

第2次富谷市総合計画に係る協議に役立てるため、今後の本市のあるべき姿等について、自由に話し合える場を設け、本市の将来像を見出すことを目的に、令和6年12月から令和7年2月にかけて全3回のワークショップを開催します。

■ワークショップ名

「富谷市の未来について考える市民ワークショップ」

■目的

参加者にワークショップを通して富谷市の未来について自由に議論していただき、富谷市の将来像のイメージや方向性を共有する機会とする。

■テーマ

市民が考える2050年（30年後）を見据えた「富谷市の将来像」

■各回のテーマ

第1回「富谷市の今について話し合おう」

第2回「富谷市の将来像について話し合おう」

第3回「将来像の実現に向けたアイデアについて話し合おう」

■開催日時

- ・ 令和6年12月21日（土）、令和7年1月11日（土）、2月9日（日）
- ・ 午後1時から午後3時まで

■開催会場

富谷市役所（第1回）、東向陽台公民館（第2回、第3回）

■想定参加者数

40名程度（公募）

■ワークショップの形式

3回すべてにおいて、5人以内のグループ（計8グループ）ごとに議論する。

第4 富谷市の現状

3. 富谷市総合計画の検証

平成 28 年度を初年度とする「富谷市総合計画」では、「後期基本計画（平成 28 年度～令和 7 年度）」において、各施策の進捗状況を管理するため、47 項目（再掲除く）の目標指標・指数を設定しました。

実績値を把握できなかった 1 項目を除いた 46 項目のうち、達成度 90%以上の項目が 26 項目となりました。

将来像（基本方針）ごとの総括

①暮らしを自慢できるまち！

【目標指標 15 項目 達成度 90%以上の項目は 10 項目】

富谷で働くことにやりがいを実感し、「とみやシティブランド」で自慢できるような環境づくりを目指し、まちづくりを進めてきました。富谷宿観光交流ステーションを中心とした賑わい創出や起業・創業の実現をはじめ、企業誘致による雇用者数の増加等、環境整備を進めてきました。

市民バス利用者数や上水道利用の有収率、合併処理浄化槽の普及率はやや目標を下回っており、安全で自由に移動でき、住み心地の良さを実感できるまちづくりに向けた取組が課題となっています。

【これまでの主な取組】

- 高屋敷西工業団地の整備と 200ha の成田二期北工業団地の整備による企業立地の促進
- 起業支援等の拠点施設「TOMI+」「荷宿」の整備や、起業塾「富谷塾」を通じた起業・創業者への支援
- 富谷宿観光交流ステーション「とみやど」の整備等による観光振興・交流人口の拡大、しんまち地区の活性化
- 「やすらぎパークとみや」の整備や大亀山森林公園での実証事業（ツリーハウス、カフェ営業）の実施
- 富谷市の特産品の開発や PR（ブルーベリー、富谷茶、はちみつ等）
- 地下鉄・BRT 整備の調査検討
- デマンド交通の運行

第4 富谷市の現状

②教育と子育て環境を誇るまち！

【目標指標 9 項目 達成度 90%以上の項目は 4 項目】

子どもが笑顔で安心して暮らせる環境づくりを目指し、子どもにやさしいまちづくりを進めてきました。他の自治体に先がけて、学校給食費完全無償化、子ども医療費完全無償化、保育所待機児童数ゼロの維持など子育て支援の環境整備や子どもたちの多様な学びの場を提供してまいりました。

学習活動に対する市民満足度や文化活動に対する市民満足度等は未達成となっており、生涯学習や芸術・文化活動の促進に向けた取組が課題となっています。

【これまでの主な取組】

- 子どもにやさしいまちづくり実践自治体の承認（国内初）
- 待機児童ゼロの達成と継続（令和 2 年から 5 年連続）
- 学校給食費完全無償化（県内自治体初）
- こども医療費 18 歳までの完全無償化の実現
- 富谷中学校西成田教室開設（東北初となる不登校特例校）
- 富谷市複合図書館（ユートミヤ）の整備

③元気と温かい心で支えるまち！

【目標指標 12 項目 達成度 90%以上の項目は 5 項目】

あらゆる世代が元気に暮らし、高齢者や障がい者も安心して暮らせるような環境づくりを目指し、まちづくりを進めてきました。認知症学びの講座の受講者数や就労移行支援・就労継続支援事業所数の増加等、環境整備を進めてきました。

高齢者・障がい者外出支援乗車証「とみぱす」交付率（高齢者）や社会福祉協議会へのボランティア登録者数はやや目標を下回っており、高齢者や障がい者がより安心して暮らし、身近なコミュニティが市民の支えになるようなまちづくりに向けた取組が課題となっています。

【これまでの主な取組】

- 高齢者・障がい者の外出支援乗車券「とみぱす」の導入
- 福祉タクシー利用券助成等の実施
- 地域と施設の支え合いモデル事業 とみサポ「こころね」の実施
- 「街かどカフェ」、「ゆとりすとクラブ・サロン」の開催
- 総合病院の誘致活動
- 東北大学、宮城県眼科医会との連携協定、まちかど健康ラボの開設

第4 富谷市の現状

④市民の思いを協働でつくるまち！

【目標指標 13 項目 達成度 90%以上の項目は 7 項目】

日常生活が安全で、健全なまちづくりに向けて市民が協働できる環境づくりを目指し、まちづくりを進めてきました。審議会等委員への女性登用率の向上や財政健全化判断比率 4 指標の基準内確保、市税収納率の向上等、環境整備を進めてきました。

消防団員充足率や耐震診断士派遣事業申請件数はやや目標を下回っており、日常生活がより安全に包まれるまちづくりに向けた取組が課題となっています。

【これまでの主な取組】

- 「とみやわくわく市民会議」、「とみやわくわくミーティング」等の開催
- 「ゼロカーボンシティ」の宣言、「富谷市 2050 年ゼロカーボン戦略」、「富谷市地球温暖化対策実行計画（区域施策編・事務事業編）」の策定
- SNS の活用等による広報広聴機能の充実
- 地域コミュニティによる自主防災組織の育成促進
- 行政事務のデジタル化の推進
- 行政改革の推進
- 防犯カメラの設置推進

第5 まちづくりの主要課題

本市を取り巻く環境、市民ニーズや各種調査等から得られた現状分析結果を踏まえ、これからのまちづくりにおける主要課題を以下のとおり設定します。

課題1 産業・観光・歴史（「活力と魅力があるれるまち」を目指す）

活力に満ちたまちづくりを推進するためには、働く場所の充実や、地域に根付いた魅力的な産業が発展し続けることが重要です。農業の担い手づくりや新たな産業の創出に加え、市内企業への支援や企業誘致など、雇用の確保と産業の活性化が求められています。

また、本市の特産品や観光施設等の地域資源を活用し、地域経済の好循環を生む観光振興にも取り組んでいくことが重要になります。子育てや教育・生活環境、市民協働のまちづくり活動など、本市の魅力を「とみやシティブランド」として確立し、全国に発信しながら交流人口の拡大に取り組むとともに、本市への移住・定住へとつなげていくことも求められています。

- 製造業等の企業誘致による働く場所の確保
- 市内企業の育成、稼ぐ力の向上
- 富谷塾等を通じた地域で活躍する人材の更なる育成・支援
- 農業の担い手の育成・支援
- 観光資源を活かした誘客の促進・PR、観光スポットの連携
- 特産品の生産拡大と認知度の向上に向けた PR など

課題2 都市基盤（公共交通・道路・公園・上下水道・住環境）（「快適で住みよいまち」を目指す）

本市は、都市機能と豊かな自然が共存する優れた住環境を有しています。DX 化の推進等により都市機能の更なる充実を図りつつも、自然環境を保全し、田園風景とのバランスや環境に配慮したまちづくりなどの取組を進めることが重要となります。

また、本市は、道路事情や公共交通システムにおいて、他団体と比較して、決して優位性が高い状況にはありません。その中において、通勤・通学者の仙台市地下鉄泉中央駅へのアクセス等が課題となっており、本市での暮らしやすさを向上させるためには、新公共交通の整備の検討を進めることや既存の公共交通システムの利便性を高めることが重要となっています。加えて、市内の回遊性を高めるため、市民バスやデマンド型タクシーの利便性向上や利用促進も課題となっています。

- 新たな宅地開発や住環境整備
- 新たな商業地域の開発
- DX の促進による経済や市民生活の質の向上
- 公共交通機関の利便性向上
- 仙台市泉中央までの新たな基幹公共交通の整備
- 道路や上下水道施設の維持管理
- 都市と自然との調和 など

第5 まちづくりの主要課題

課題3 子育て・学校教育（「子どもと子育てにやさしいまち」を目指す）

本市では、出生率の低下により少子高齢化の進行が見え始めています。少子化の進行を鈍化させ、活気のあるまちづくりを進めるためには、子育て支援策の充実や教育環境の更なる充実を図り「子どもにやさしいまち」を進めることが重要です。富谷の未来を担う宝である子どもたちを育むとともに、若い子育て世帯の転入を促すため、結婚・妊娠・出産・子育てまで切れ目のない支援が求められています。

また、子どもたち一人ひとりが心豊かにたくましく生きる力を伸ばし、ICTの進展など時代に即した学びを得られる教育環境づくりに向けて、家庭・地域・学校・行政が連携して、教育のしやすいまちづくりの推進が必要となります。

子どもにやさしいまちづくりの実現に向けては、子どもたちの意見を聴く場を設定し行政に反映していくことや子どもたちの視点を意識して取り組んでいくことが重要になります。

- 子どもにやさしいまちづくりの普及・啓発、事業の取組
- 子育て支援の更なる充実
- 教育環境の更なる充実 など

課題4 健康・福祉・医療・生涯学習・スポーツ・芸術文化（「誰もが健康で生き生きと暮らせるまち」を目指す）

近年の本市における医療体制は、医療機関の連携・協力により維持されてきましたが、将来的な少子高齢化の影響を視野に、誰もが安心して生涯を健康で過ごせるまちづくりを推進するため、市内における福祉施設や急性期医療災害拠点病院などの拡充を図ることが求められています。

また、健康寿命の延伸に向けた高齢者等の生きがいづくりや居場所づくり（世代間交流）、経験を活かせる活動機会の提供、公共交通の充実、買い物支援など誰もが充実した生活を送れる環境づくりに向けた取組が重要です。

- 医療・福祉施設の拡充
- 健康づくり・生きがいづくりの推進
- 高齢者や障がい者等への支援の充実
- 公民館の（仮称）市民センター化への取組 など

第5 まちづくりの主要課題

課題5 防災・防犯・交通安全・人権・男女共同・多文化（「安全安心で誰もが暮らしやすいまち」を目指す）

近年、大型地震や気候変動に伴い頻発する自然災害や新たな感染症の脅威等から市民の生命と財産を守り、安全に暮らせるまちづくりを進めることが求められています。

また、災害時には地域における助け合いが重要になることから、市民の防災意識を高めることが必要です。日々の生活においては、自助・共助・公助を着実に進めていくことにより、コミュニティでの見守り活動などを通じて、犯罪や交通事故の無い誰もが安心して生活できる地域づくりを進めていくことも重要です。

- 防災組織の育成促進
- 安全・安心な生活環境の確保
- 男女共同参画の推進
- 多文化共生の推進 など

課題6 自然環境・ゼロカーボン・環境衛生（「未来へつなぐ環境にやさしいまち」を目指す）

本市が有する農地や森林などの優れた自然環境を保全・継承し未来へつなぐとともに、都市機能と自然環境が調和した田園都市を目指して環境にやさしいまちづくりを進めることが重要となります。

また、2015年に国際連合において採択された「持続可能な開発目標（SDGs）」は国際社会共通の目標となっており、本市のまちづくりにおいてもその方向性を踏まえた取組の推進が求められており、ゼロカーボン社会の実現に向けた実証事業の実現や環境教育、普及啓発などにも取り組んでいく必要があります。

- 豊かな自然環境の維持
- SDGs や環境問題への対応
- 2050年ゼロカーボンへの取組
- ごみの排出抑制と再資源化の推進 など

第5 まちづくりの主要課題

課題7 市政運営（行財政・市民協働・広報広聴）（「協働でつくる持続可能なまち」を目指す）

近年の社会情勢の変化等により地域の課題や市民ニーズが多様化しています。これからのまちづくりの中で何よりも重要なのは、行政だけでは対応しきれないニーズに対し、市民、団体、企業、行政が協力して「みんなの課題をみんなで解決する」ことであり、市民力を活用した持続可能なまちづくりの実現を目指す必要があります。

また、本市の財政状況を踏まえ、限られた経営資源を有効に活用して、社会の環境の変化に伴って多様化・複雑化する社会ニーズに対応するとともに、将来にわたって持続可能な行財政運営を推進していく必要があります。

- 市民力の高さを活かした協働のまちづくり
- 地区ごとの特性や人材を活かしたまちづくりの推進
- シビックプライドの醸成
- 行政改革の推進
- 戦略的な情報発信
- 市民の声をよく聴き、施策に反映させる体制の充実 など